新春特集
小国高校生と語る地域と学び

小国高校では白い森未来探究学や全国高等学校小規模校サミット、地域みらい留学３６５、白い森留学など特色ある取り組みが実施されています。
今月は、町長と小国高校生の皆さんが高校での学びや今年の抱負について語り合った座談会の一部をご紹介します。

高校での学びを通じた町のイメージ

司会　最初に、皆さんが小国町に対して持っているイメージについてうかがいます。また、高校入学後のイメージの変化についてもお願いします。

飯田さん　小国町に対して、自然が多く、マタギや歌舞伎など文化が栄えているといういいイメージがありました。高校入学後、町の行事やイベントに参加するようになり、たくさんの移住者や他県の人が小国町に来てくれていることを知りました。他地域の人が行ってみたいと思えるような町なんだと感じました。

佐藤さん　小さい頃から近所付き合いが盛んで温かい人が多いイメージがあります。高校入学前は就職するためには町外に出るしかないと思っていましたが、授

▲地域のかたと一緒に取り組む放課後活動（木工部）

▲地域の行事やイベントにも参加（八幡神社例大祭）

業を通して、自分のやりたいことを実現できる環境があることを知り、小国町でもやりたいことができるという印象に変わりました。

司会　山科校長先生に質問ですが、小国高校や生徒の特色ある活動を見て、感じていることをお聞かせください。

山科校長　小国高校は県立高校ですが、町の皆さんに支えていただいている、関わっていただいている学校だと感じており、とても感謝しております。

　地域のかたが生徒を受け止めてくれるからこそ、小国高校のメインテーマである「挑め、ともに！」の通りに生徒が挑め、教師も県内でも類を見ないほど様々な取り組みにチャレンジできています。生徒は大人と話す力を持っており、授業と部活のサイクルで過ごしている高校生よりも一歩大人になっているのではないかと感じています。

　また、小国高校では部活動がなくなり、その余裕ができた時間を地域のかたと活動する仕組みができています。多感な高校時代に地域のかたと活動する経験はとても貴重だと思います。

司会　これまでのコメントを受けて仁科町長からもお話をうかがいます。

小国町長　「なにもない」というのはそこにあることに気づいていない状態であり、山科先生の話にもあった地域と関わることにより、気がついていくものだと思います。例えば東京ではキノコについて知ることは難しいですが、小国では山に行ってどんなキノコがあるか、どれが食べられるのかなどを教えてもらえます。魚についても獲り方から食べ方まで教えてもらうことができます。

　こういったサバイバルな体験ができ、たくましく成長できると感じます。

小国高校の活動

司会　小国高校の取り組みで充実しているものや、自分の高校生活で充実していると感じていることは何ですか。

飯田さん　7月に開催した全国高等学校小規模校サミットが、準備期間も含めて充実していました。短期間でお互いの地域や学校の魅力について話し合えるので、いろいろな気づきや学びを得られました。また、小規模校サミット参加者に小国町を紹介するレセプションでは、町のことを知らない人の立場に立って企画を考えたことがとても難しかったけれど充実していました。

仁科町長　小規模校サミットの参加校は毎年増えていますが、その理由は何だと思いますか。

飯田さん　ＳＮＳを使って情報発信していますが、参加校からの口コミからも広がっているようです。あとは自分たちで小規模校を調べて、参加をお願いする電話をかけました。

司会　参加者を増やすということはとても大変なことなので、素晴らしいと思います。修学旅行で参加校と関わりを持ち続けていると聞きました。

飯田さん　今年は沖縄の本部（もとぶ）高校と交流し、２校混合チームによるご当地クイズ大会などを行い、とても盛り上がりました。

司会　そういったフォロー

▲飯田晴基さん

▲全国高等学校小規模校サミット

があるから参加校が増えているのかもしれませんね。梶原さんはいかがですか。

梶原さん　白い森未来探究学の授業で地域に出ていく活動が多く、充実していると感じています。新しい発見がたくさんあり、自分の視野を広げるきっかけにもなりました。

司会　今年はどのようなことを行いましたか。

梶原さん　南部地区でわらび採りを行いました。わらび採り自体初めての体験で、今まで山菜に対してあまり意識したことがありませんでしたが、地域のかたがたが様々な思いを持ってやっていることを知りました。また、わらびを採る基準が決まっており、どれを収穫していいのか選ぶことが難しかったです。

司会　佐藤さん、齋藤さんはどのようなことが楽しいですか。

佐藤さん　2年生のときのマイプロジェクトです。全校生や町のかたに協力をお願いして進められたことが楽しかったです。「廃棄物を価値あるものへ」というテーマでアップサイクルについて知ってもらうことと、ものを捨てないという意識に変わってもらうことを目

▲佐藤彩花さん

的に取り組みました。発表の際、アップサイクルについていい印象を持ってもらえて嬉しく感じました。

齋藤さん　私は3年生の白い森未来探究学の発表までの準備が楽しかったです。私の班は結婚について調べたのですが、インタビューやアンケートで様々な考えや新しい発見を得て面白いと思いました。

司会　白い森未来探究学について校長先生からもコメントをお願いします。

山科校長　白い森未来探究学は地域に浸って、地域を知って、地域のために何ができるのかを生徒のやりたいという想いを原動力として進めているところがいい

▲齋藤　蓮さん

■全国高等学校小規模校サミットとは
小規模校の生徒が交流、各学校の特色ある取り組みを発表し合い、意見交換を行うことで高校生として何ができるかを考え、これから一層求められる人間関係構築力などを向上させるとともに、将来それぞれの地域を支えていくための資質を育むことを主な目的とした活動。小規模校の存在意義や可能性を考え、全国の仲間とつながるため、平成30年に小国高校生が企画・開催したもので、6回目となる令和5年度は全国から15校127人の高校生が参加しました。

■白い森未来探究学（通称もりたん）とは
主体的かつ探究的な活動を通し他者と協働し、広い視野を持ち、社会の状況変化に応じ柔軟に、前向きに再構築できる能力の育成を目指すことを目的に実施されています。
・1学年…自己の興味関心を高めるために、やりたいことを極め楽しんでいる地域の大人に触れる「地域文化学」
・2学年…身の回りの課題や関心をテーマに個々がプロジェクト（マイプロジェクト）を立ち上げる「地域実践学」
・3学年…実践・調査から新たな提案をする「地域構想学」

と思います。「やりたい」をスタートとし、自分の趣味だけでなく「誰かのために」取り組んでいるので、先進的な授業だと思います。

令和6年度に向けて

司会　最後に、これから自分が地域とどのように関わっていきたいか、小国町がどんな町になればいいかについてお聞きします。また、今年の抱負もお聞かせください。

飯田さん　マイプロジェクトのテーマがマタギなので、小国の文化を知ってもらえるような活動をしていきたいです。高校生として関われるのが残り1年になってしまうので、令和6年は町や高校と密着して活動する年にしたいです。

▲梶原青空さん

▲地域の大人にマイプロジェクトについてアドバイスをもらうトークフォークダンス

梶原さん　小国町について知らないことが多いので、さらに地域に出て町についてたくさん知りたいです。そのためにも、地域のかたとたくさん話して関わって、体験して、小国町をより満喫したいです。また、マイプロジェクトは地域のためになるような喜んでもらえるような活動をしたいと思います。

佐藤さん　私は将来、日本の伝統的な文化に興味を持つ外国人旅行客をもてなす仕事に就きたいと考えています。小国町はマタギやつる細工といった自信を持って発信できるものがあるので、外国人観光客が増えたらいいなと思っています。

齋藤さん　すでに進路が決まっており、これから小国町を離れることになりますが、町の魅力をもっと外に発信して、活気あふれる町になればいいなと思っています。自分自身も町の情報をSNSで発信していきたいと思います。

高校魅力化の成果と今後

仁科町長　現在、小国高校は当初、想定していた以上に、大きく変わってきたと感じています。

　その理由の一つとして地域みらい留学365や白い森留学により、外部との接点が増えたことが挙げられます。異なる環境、考え方、生活スタイルを持つ外部との交流により、新たな価値観に触れるとともに、今まで気づかなかった小国町の良さ、価値について再認識できます。また、異なる考えを持つ人のスタンスに立ち、理解しようとすることで、どのように対応すればいいのか、どうしたら理解してもらえるかを考える力が身につきます。これは社会に出てから重要となる能力です。外側の情報をどんどん取り入れ、その中から必要な情報を選択することが重要であり、小国高校はそれができ始めています。

　町では今後も、地域みらい留学365や白い森留学、白い森未来探究学などを通じて地域との協働による高校魅力化支援に取り組み、地域の様々な主体と協働した人材育成と地域活性化・地方創生を目指していきます。